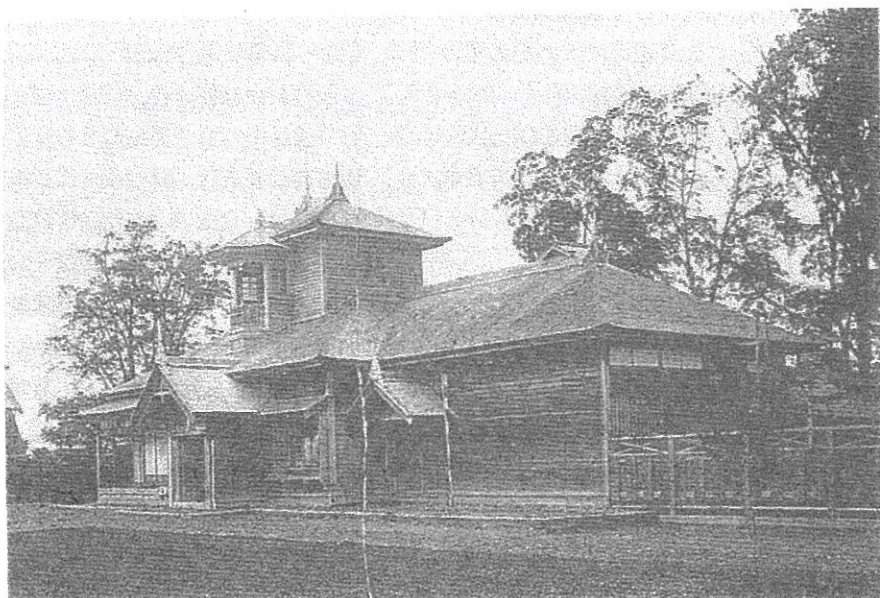


広報 アノロ

執筆者：栗山町史資料調査室 研究員 青木 隆夫 発行：栗山町教育委員会

福井正之のこと一補遺

一夕張の山高く・夕張の水長く



福井農場事務所（明治 38 年）

タイトルの「夕張の山高く・夕張の水長く」は、角田の方田寺境内にある福井正之顕彰碑の題額から採ったものです。

■地域新聞と雑誌の中の福井正之

「アノロ」108号では、福井正之の経歴や功績などを紹介しましたが、今回は当時の地方新聞と雑誌資料の二つの文献の記事の中から、福井が生きた時代の記録を拾い出し、その事蹟を時系列に紹介したいと思います。

使用した新聞と雑誌は、当時道内の有力紙であった『北海道毎日新聞』（後の『北海タイムス』・『北海道新聞』）と、北海道庁が刊行していた『殖民公報』です。本来であれば、同時期に発行されていた『小樽新聞』や、他の雑誌類などからも、記録の拾い出しをすべきところでしたが、残念ながら作業を進められませんでした。

ただ、その箇所箇所に福井の活動の事蹟を見ることができましたので、不十分ではありながらも、生前に角田村でエネルギーに生きた福井の姿を知る一助になるようにも思います。

■『北海道毎日新聞』の福井正之記事

福井の名前が主に新聞に登場するのは、明治 30 年から没後となる大正 9 年までの間です。

この時代としての露出する記事数の多さは、泉麟太郎に次いで、栗山（当時は角田村）での人物の評価を反映したものと受けとめることもできるようです。

ただ、当時の新聞の記事内容は、全体に日時や事実関係でややも正確性に欠ける向きもあり、その点に留意しながら福井の人物像を具現化するご参考としてください。

※記載の年月日は新聞の発行日で、記事内容の概要のみ拾い出していますので、読みにくいところも多いかと思いますがご了承ください。

【明治30年7月8日】〈角田村雑況〉

総代の福井正之、清野庄三郎の2名、大地主のため多忙。

【明治30年10月20日】〈角田村開村十年記念祭〉

総代人の福井正之、泉麟太郎功労賞賛の辞。祭典係は福井正之。

【明治31年1月28日】〈北海道庁告示第23号〉

(1月28日)〈札幌連隊区徴兵参事員ノ異動〉新任ノ部、福井正之。

【明治31年4月23日】〈角田、岩見沢二村の運動〉

角田村水田拡張開発の計画。夕張川引水灌漑溝工事の財源。同村を一団体として日本勧業銀行に4万円の借り入れ。泉麟太郎、福井正之両総代上京運動中。

【明治31年9月20日】〈水災見聞記(第三信続)〉

午後2時、角田で総代人の泉麟太郎、福井正之の救恤協議。福井正之の案内で被害地視察。

【明治32年7月14日】〈角田水利工事の概況〉

用水第一期線(阿野呂川～官設大排水)の竣工で150町歩の用水確保。水田開発拡大では不足。現作付は福井正之40、高瀬和三郎30、高野正蔵20、伊藤廣幾20、助川貞次郎20、高木兼寛15、斉藤三郎15、実吉安純15、湯地定基10、泉麟太郎10、その他5～6町歩20名、水争い取締り。用水第二期線は夕張川から取水。水利事務所高橋俊恵が取水箇所を発見し工事入札。

【明治32年12月6日】〈角田村水路工事(続)〉

10月に道庁長官出願認可。銀行交渉に戸長則武鐵焦、総代人の福井正之の二人が上京。

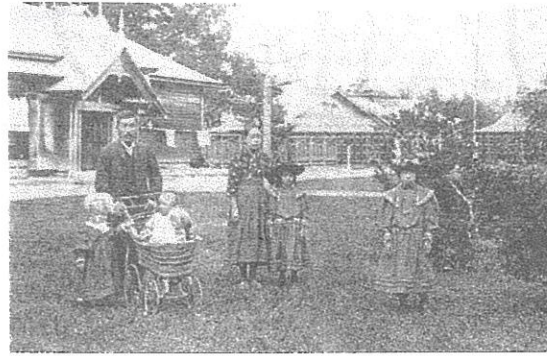
【明治33年9月1日】〈角田村用水工事落成式〉

9月2日角田村小学校で11時30分～12時30分まで落成式挙行。招待者200名、札幌からは道庁長官等70名。札幌発7時50分、栗山着10時。角田まで馬で移動。式後に現場視察。宿舎に福井正之宅を用意。雇入れの築隊も小樽より同列車で角田入りの予定。本年の村内水田作付300町歩以上。大地主の福井正之、助川貞次郎、高木兼寛、実吉安純、佐々木辰二の5農場は50町歩を作付。他は斉藤三郎、泉麟太郎、湯地定基、伊藤広幾。作況は良好。

【明治34年2月27日】〈角田神社に泉麟太郎の記念碑建立〉2月8日の前日、石材を馬車で運搬し渡辺留八宅で餅つき。発起人総代の福井正之、清野庄三郎、今井弥平治、三田喜一郎、渡辺留八、轟三平。

【明治34年7月19日】〈夕張郡道会議員有権者〉

角田村の今井弥平、泉麟太郎、伊藤廣幾、福井正之、小林米三郎、酒喜久左衛門、廣瀬利三郎等の45名。



福井正之と家族(明治30年代)

【明治34年7月25日】〈二股炭山開業の相談会〉

二股炭鉱会社創立者、代議士加藤政之助7月17日角田村戸長役場で株主募集のため有志者と懇談、四鉱区所有者の篠原要之助、資力なく株式組織を加藤に依頼。道庁園田長官、北炭井上角五郎等相談。二股から3哩半の線路延長の株券募集済、栗山・角田間の支線延長費用2万円募集400株の件など。出席者は泉麟太郎、福井正之、小嶋小次郎、伊藤廣幾等10数名。

【明治34年10月10日】〈夕張川護岸工事申請〉

角田村字富山の福井正之所有地、字三日月の泉麟太郎所有地の護岸工事、則武戸長より道庁申請。

【明治34年12月29日】〈商業登記公告—札幌石材〉

札幌石材㈱の代表藪惣七、社員角田村63番地の福井正之、高瀬和三郎、助川貞次郎。明治34年12月27日登記。

【明治36年10月16日】〈栗山倉庫設立〉

藪惣七、助川貞次郎、福井正之の3名が発起の倉庫会社設立計画。

【明治36年11月10日】〈地米出廻り予想〉

角田村字栗山停車場より出荷の地米予想は約1万石内外。主な生産者福井正之、高木兼寛、1反3俵半。

【明治37年7月26日】〈空知外三郡道会議員予選会〉

7月23日水害善後策協議会閉会後の有志懇親会出席者、福井正之、泉麟太郎、杉武一郎等、空知三郡内出席者で道会議員候補者予選会実施。東武、土居勝郎、助川貞二郎、藤田寛路当選。総投票数35票。泉麟太郎7票、伊藤廣幾3票、福井正之落選。

【明治37年12月10日】〈岩見沢特報(12月8日発)〉

角田村自営工事と災民救護。7月水害被災者の扶食、小屋掛、種物料貸与出願について。石原村長、福井正之、泉麟太郎、則武某、伊藤廣幾等が協議。角田村からは出願者を出さず。特別反別割負担とし、角田村自営で道路堤防復旧工事实施による農民救護を決定。延長1250間、高さ11尺、幅6尺(工費3200余円)の工事起工。

【明治38年2月13日】〈商業登記公告—札幌倉庫〉

札幌倉庫㈱臨時株主総会で取締役変更。角田村63番地の福井正之、明治38年2月8日登記。札幌区裁判所。

【明治38年4月29日】〈商業登記公告—北海道貯蓄銀行〉北海道貯蓄銀行、取締役・監査役が辞任し4月23日臨時株主総会で補欠選挙。角田村の福井正之選任4月26日。

【明治39年3月27日】〈委員氏名広告〉

北海道物産共進会協賛会既定委員。石原市助、泉麟太郎、福井正之、実吉賀之丞。明治39年3月。

【明治39年9月17日】〈釧金広告—共進会協賛会〉

北海道物産共進会協賛会。9月16日、5円福井正之、3円小島小治郎、泉麟太郎、今井弥平治、鳥井正二、小林龍吉。

【明治39年9月27日】〈商業登記公告—栗山倉庫〉

栗山倉庫、角田村字アノロ36番地、福井正之。明治39年9月25日、札幌区裁判所由仁出張所。

【明治39年11月20日】〈本道農家大会広告〉

11月21日午後1時、明治40年度北海道地方費予算反別割増加案に反対の大会開催。伊藤廣幾、福井正之等。

【明治40年1月1日】〈年始広告〉

栗山倉庫主の福井正之。北海道会議員の泉麟太郎。

【明治40年1月14日】〈政友会支部大会〉

1月13日、立憲政友会支部大会を開催。新任評議員(空知に福井正之、杉武一郎等)

【明治40年4月12日】〈商業登記公告—岩見沢倉庫〉

3月29日設立。取締役は夕張郡角田村63番地の福井正之。札幌区裁判所岩見沢出張所。

【明治40年5月7日】〈株式募集広告—札幌石材馬車鉄道〉発起人、福井正之他。札幌石材馬車鉄道㈱創立事務所。

【明治40年6月10日】〈村会議員当選者〉

一級町村制施行町村議員選挙。角田村の小林米三郎、友成勝二、村田三次、福井正之等20名。

【明治40年7月11日】〈9日付岩見沢通信(選挙、道会議員候補者)〉

幌向の上野勘助、有力後援者角田村の福井正之。有権者7割を固め当選の談。

【明治40年8月2日】〈一筆啓上致候〉

道議会議員選挙情勢。伊藤廣幾は土居勝郎推薦者の一人。福井正之は伊藤廣幾の無二の交友。

【明治40年8月15日】〈商業登記公告—札幌倉庫(室蘭支店)〉

取締役で夕張郡角田村63番地の福井正之。明治40年8月9日。室蘭区裁判所。

【明治40年9月21日】〈閑是非〉

砂川倉庫空券事件。昨年9月以来札幌倉庫支店の栗山倉庫は、角田の福井正之に分離し独立経営。

【明治40年10月30日】〈空知雑信(28日付支局報)〉

疑獄関係土地売却。角田村の福井正之。美唄屯田兵村共有地800余町歩。17万円で買収契約成立。

【明治40年12月1日】〈北海道有志大会広告〉

12月5日札幌開催。発起人は川崎畔、泉麟太郎、伊東廣幾、福井正之等。

【明治40年12月2日】〈栗山通信(競馬場の設立)〉

来春、福井正之の所有地。

【明治40年12月3日】〈全道有志大会彙報〉

発起人の会合。発起人有志は福井正之、伊藤廣幾等7名。

【明治40年12月4日】〈北海道有志大会広告〉

12月5日札幌開催。発起人は川崎畔、伊藤廣幾、福井正之等。

【明治40年12月6日】〈北海道有志大会〉

座長は伊藤廣幾。議案内容9議案。第3議案説明者に福井正之。

【明治40年12月7日】〈本道有志大会演説要旨〉

伊藤廣幾、福井正之、有志大会出席者。川崎畔等86名。

【明治41年1月1日】〈年始広告〉

栗山倉庫主、夕張郡角田村の福井正之。

【明治41年1月22日】〈長沼馬車鉄道計画〉

栗山市街・長沼間10哩。資本金6万円で年内竣工予定。株主は岡村三次、福井正之、杉武一郎。

【明治41年1月30日】〈札幌倉庫(株決算報告広告)〉

明治41年1月、取締役の福井正之。

【明治41年2月1日】〈北海道貯蓄銀行決算報告広告〉

明治41年1月28日、取締役の福井正之。

【明治41年2月3日】〈貯蓄銀行大株主〉

福井正之100株等。

【明治41年2月22日】〈美唄疑獄公判傍聴記〉

角田の福井正之、美唄兵村公有地10万円で買収し翌日12万円で転売。

【明治41年4月22日】〈中西派の奸策、名義乱用の激を飛ばす〉

衆議院議員選挙候補の中西六三郎派、農民大会有志名義で推薦状配布。伊藤廣幾、福井正之、谷田清次郎、有松岩太郎、杉武一郎等25名の連名に関与せず。

【明治41年4月25日】〈総選挙彙報〉

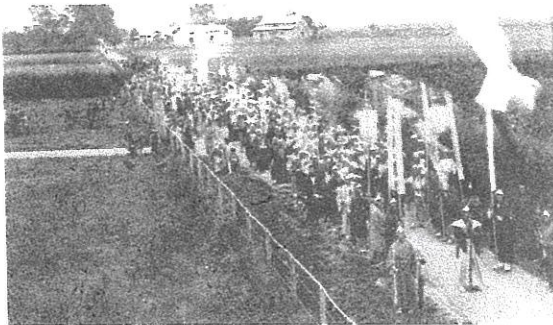
札幌郡部、中西派の農民大会推薦状署名者、伊藤廣幾、福井正之(病床にあり)中立を表明。

【明治41年5月7日】〈北海道貯蓄銀行、商業登記公告〉
取締役の福井正之は満期退任。監査役の金子元三郎は辞任。明治41年5月5日登記。札幌区裁判所。

【明治41年6月27日】〈実業家十傑第1回開票数〉
2票、角田村の福井正之。

【明治41年7月29日】〈閑是非〉
北海道貯蓄銀行営業停止問題。重役の資産家、福井正之、所有地等他人名義に移す。

【明治41年8月4日】〈福井正之氏死去〉
北海道貯蓄銀行取締役たる角田村の福井正之は去2日、死去したり。(福井正之死亡広告)8月2日午前9時30分、死去。8月4日午後1時、葬式。明治41年8月2日、福井善吉、友人の高木兼寛、伊藤廣幾、泉麟太郎。



福井正之の葬儀(明治41年)

【明治41年8月5日】
〈福井正之会葬謝礼広告〉

明治41年8月5日、福井善吉。

【明治41年8月13日】〈商業登記公告—岩見沢倉庫〉
監査役の福井正之、明治41年8月2日死亡抹消。8月10日登記。札幌区裁判所岩見沢出張所。

【明治41年8月15日】〈商業登記公告—札幌倉庫〉
取締役の福井正之、明治41年8月2日死亡抹消。8月10日登記。札幌区裁判所。

【明治41年9月20日】〈故永山将軍銅像建設費寄附者〉
第4回報告。金2円、角田村の福井正之。

【明治41年9月25日】〈貯銀重役提供財産—北海道貯蓄銀行〉
重役財産負担金、福井正之5万円。

【明治41年10月6日】〈小作人の美拳〉
角田村福井農場。小作人の福井正之、8月2日逝去に際して各所で追悼会を開催。

【明治44年1月25日】〈長沼村土功組合〉
明治40年7月22日、組合創立。角田村の伊藤廣幾、泉麟太郎、福井正之等、発起人。明治28年から計画始まる。

【大正9年1月25日】〈北海道産米百万石祝賀会功労者〉
本道水田の空知支庁管内。角田村関係：故高瀬和二郎、故福井正之、泉麟太郎、伊藤廣幾、角田村土功組合。

■『殖民公報』の福井正之記事

【第3号 明治34年7月】
(農業) 石狩国角田村農況

【第25号 明治38年3月】
大地積貸付表、明治37年末
現在、北海道国有未開地無償貸付地30万坪(100町歩)以上(明治30年国有未開地処分法)。栗沢村、畑地369,950坪。明治35～44年、角田村の福井正之(小作)。

【第53号 明治43年3月】
(農業) 角田村の地主と小作人の福井正之。

【第121号 大正10年7月】
(雑録) 北海道産米百万石祝賀会、北海道米作功労者、高瀬和二郎、泉麟太郎、福井正之、伊藤廣幾。

■まとめに

これらの記事中には角田村開村十年記念祭、角田水利工事と落成式、泉麟太郎の記念碑建立、二股炭山開業と馬車鉄道の計画、倉庫事業と道政進出、銀行業、村会議員選挙と水害などの災害復旧と義捐の取り組み、国政(政友会活動)、札幌石材馬車鉄道、美唄兵村公有地疑惑事件裁判のことなど断片的ながらも見るにつけ、福井正之は角田村から栗山町の歴史の中でも、実業・経済面で傑出した人物と評価されるように思われます。

明治という時代、栗山の草創期を駆け抜け、栗山町史にも記されたように「福井が後年まで生存して町政に奔走していたならば、本町はますます顕著な発展を見せたであろうと関係者から惜しまれていた。」といった評価は「町政」のみに止まらず実業家・経済人としての活躍の片鱗をみるにつけて、もし次の大正という時代まで活躍する機会があったなら、どこまで活躍の幅を広げられたのか、その早逝は実に惜しまれるところです。

今、時代を早駆けした福井正之は台山墓地で静かな眠りにについています。

(写真は「北海道大学附属図書館北方資料室」所蔵)

栗山町開拓記念館では栗山の歴史・産業・文化に関する史料を収集しています。

何かお気づきの物などがあればご連絡ください。

栗山町開拓記念館：☎72-6035